

「環境モデル都市・北九州」の取組について

北九州市は、平成 20 年 7 月 22 日、国から「環境モデル都市」に選ばれました。「環境モデル都市」は、世界の先例となる低炭素社会への転換を進め、国際社会を先導していくという方針に基づき、先駆的な取組にチャレンジする都市のことで、日本初の試みとして、全国の多様な都市・地域から 82 件（89 団体）が応募する中、本市は 6 都市の 1 つに認定されました。

今後、市民や産業界、NPO などと一体となって取り組む体制を整えるとともに、具体的な行動計画を策定します。

【目標】

二酸化炭素の排出量を 2050 年までに 2005 年度に比べ、市域で 50%（800 万トン）削減、さらに、アジアの各都市とのネットワークを生かし、海外での削減貢献 150%相当（2,340 万トン）の削減を含め、合計で 200%相当（3,140 万トン）の削減を目指します。

【提案の主な内容】

- ・次世代エネルギー供給システムの構築（産業で発生した電気、熱等のエネルギーを地域で活用する。）
- ・低炭素 200 年街区の整備（長寿命住宅の建築や太陽光発電等の推進）
- ・アジアの低炭素化センターの設置（環境国際協力を通じて、低炭素技術の指導、人材育成などを進める。）

【今後の取組】

平成 21 年 3 月末までにアクションプランを策定し、プランに基づく具体的な取組を進めていきます。



認定証

首相官邸での認定式

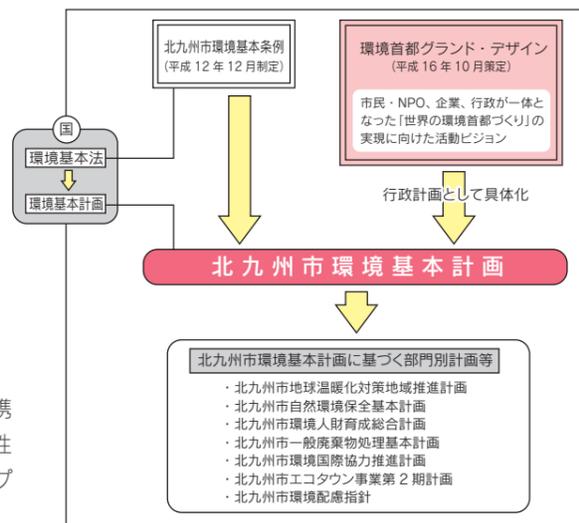
北九州市環境基本計画の策定

北九州市は、これまで「アジェンダ 21 北九州」を北九州市環境基本条例（平成 12 年 12 月制定）に基づく環境基本計画として位置づけ、総合的・計画的な取組を進めてきましたが、このアジェンダ 21 北九州の計画期間が終了することから、平成 19 年 10 月に新たに環境基本計画を策定しました。本計画は、平成 16 年に策定・公表された「環境首都グランド・デザイン」（世界の環境首都づくりに向けて市民・NPO、事業者、行政が共に取り組む活動ビジョン）の理念を実現するため、行政が取り組むべきことを明らかにし、その実効性を確保するための行政計画です。

【計画の概要】

- 計画期間 平成 19 年度から平成 23 年度（環境に関する科学的知見等の変化に弾力的に対応し改訂）
- 基本理念 「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ
- 政策目標
 - ・地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化
 - ・地域からの地球温暖化対策の推進
 - ・循環型の生活様式・産業構造への転換
 - ・豊かな自然環境と快適な生活環境の確保
- 戦略プロジェクトの設定

政策目標を達成するために、市民・NPO、事業者、行政が連携を図りながら取組を進めていくもので、先導的な役割を果たす性格を持ち、かつ、北九州市独自の先進的な取組について「戦略プロジェクト」として位置づけ、積極的かつ着実な取組を進めます。



光化学スモッグ注意報の発令について

平成 19 年 4 月から 5 月にかけて、北九州市では平成 9 年以来 10 年ぶりに光化学スモッグ注意報を発令しました。発令

日数は延べ 4 日にのぼり、400 名近くの市民が目やのどに刺激を受けるような被害届出がありました。また市内 85 の小学校で運動会が中止になるなど市民生活にも大きな影響がでました。平成 19 年 5 月からは、注意報発令時に、従来の周知方法に加え、携帯電話・パソコンへのメールを配信するサービスを開始し、迅速かつ確実な周知を図りました。また、光化学スモッグ発生要因となる物質「窒素酸化物」を含むばい煙を発生する主要 27 工場・事業場に対し、削減協力を要請しました。今後は、福岡県と連携して、大陸からの広域的な影響に対して国へ対策を要望するとともに、原因解明について国立環境研究所や福岡県と調査を実施します。

発令日	発令地区	被害届出人数(人)
4月26日	八幡西・若松	3
5月8日	市内全7区	24
5月9日	八幡西・八幡東 若松・小倉南	14
5月27日	市内全7区	368

中国における循環型都市協力の実施

現在、中国では、環境・経済・資源政策を一体的に進める「循環型経済政策」を推進しており、日中政府間の合意に基づき、日本の自治体を持つエコタウン運営のノウハウを活かした協力が行われることになりました。北九州市は、平成 19 年 9 月に、東アジア経済交流推進機構を通じた長年の交流実績がある青島市と日中循環型都市協力事業をスタートしました。平成 20 年度も引き続き青島市と協力事業を進めるとともに、平成 20 年 5 月、新たに天津市とも日中循環型都市協力事業を実施することになりました。中国における循環型社会の構築に貢献するほか、世界の環境首都としてのブランドイメージの向上、市内環境関連企業のビジネスチャンス拡大を図ります。



天津市との覚書の交換（平成 20 年 5 月、首相官邸）

食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実験事業

新日鉄エンジニアリング㈱が NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の委託を受け、食品廃棄物からバイオエタノールを製造する実験事業を平成 17 年度から実施し、平成 19 年 6 月からはプラント運転を伴う本格的な実験を開始しています。本市もこの事業の一部を受託し、生ごみの回収等で連携を図っています。

食品廃棄物の大規模排出事業者（デパート、スーパー、ホテル等）や、一部の小規模排出事業者等（病院、小学校、商店街、一般家庭）から食品廃棄物を受け入れ、食品廃棄物からエタノールを製造する技術を確立する実験を行っています。平成 20 年度からは、製造したエタノールを自動車燃料（E3 ガソリン）等として利用するといった最終利用までの一貫した実験を行います。また、「北九州市民環境パスポート（カンパス）事業」と連携して、一般家庭で分別した生ごみを持ち込むとカンパスポイントが取得でき、たまったポイントはエコグッズに交換できるなど市民参加型の実験事業となっています。

第2回 3R 推進全国大会の開催

平成 19 年 10 月 17 日～10 月 21 日、第 2 回 3R 推進全国大会が北九州市で開催されました。

この大会は、3R 活動の推進を通じて、循環型社会づくりに取り組んでいくために開催されたもので、会期中は、市内外から延べ約 16 万人もの方々に参加いただき、環境問題、3R に対する関心の高さが窺えました。

式典内容	3R 促進ポスターコンクール等表彰式、特別講演（3R 活動推進フォーラム会長：小宮山宏氏）、記念講演（エッセイスト：安藤和津氏）、大会宣言など
イベント	3R & グリーン購入ネットワークフェア、西日本総合展示場における各種セミナー、エコスタイルタウン会場における 3R フェア
関連イベント	北九州市 3R 活動推進表彰、ごみゼロふくおか推進大会、東京大学サステイナビリティー学連携研究機構（IR3S）・北九州市共催シンポジウムなど

子どもエコクラブ全国フェスティバル in 北九州

平成 20 年 3 月 29 日～30 日、子どもエコクラブ全国フェスティバルを北九州市で開催しました。全国の「子どもエコクラブ」の関係者が一堂に会し、交流を深めるとともに、各地で展開されている活動の紹介を通じて、「子どもエコクラブ」事業をはじめとする環境保全活動の定着拡大を図るために開催するもので、エコツアー・植樹体験やさかなクントークショーなどのイベントを実施しました。北九州市は、子どもエコクラブ活動を平成 7 年度から開始し、平成 16 年度には、創設以来全国一を誇る会員数となり、環境大臣から感謝状を授与されるなど、活発な活動を行っています。